

受けましょう！がん検診

文=山田 朋枝(保健師)

表1 部位別死亡率順位

	1位	2位	3位
男性	肺	胃	大腸
女性	大腸	肺	胃

(がん統計 '13より)

日本人のおおよそ2人に1人が一生のうちにかんと診断され、日本人の2人に1人が、がんにかかります

がんは、30年以上日本人の死因の第1位となっており、特に50歳代後半では死因の半数近くを占めています。がんを予防するには、生活、運動、飲酒、休養などの生活習慣を見直すとともに、定期的にがん検診を受けることが大切です。

男性ではおおよそ4人に1人が、女性ではおおよそ6人に1人ががんで亡くなっています。うち、死亡数が多いがんの部位は、表1のとおりです。その一方で、がん検診の受診率は国が目標とする50%をはるかに下回る30%程度。つまり、日本人の7割近くの人のがん検診を受けていません。

なぜ、がん検診を受けないのでしょうか。内閣府による世論調査によれば、「時間が無い」「最も多く次いで、経済的負担」「がん認識への恐怖」が理由として挙げられています。

検診でがんが見つかるのが怖いと思う方が多いと思いますが、がんは不治の病ではありません。早期発見・早期治療にすぎれば生存率が高くなります。(表2)しかし、早期のがんは自覚症状がほとんどなく、見つけるのが難しいのです。図1を見てわかるように早期にがん

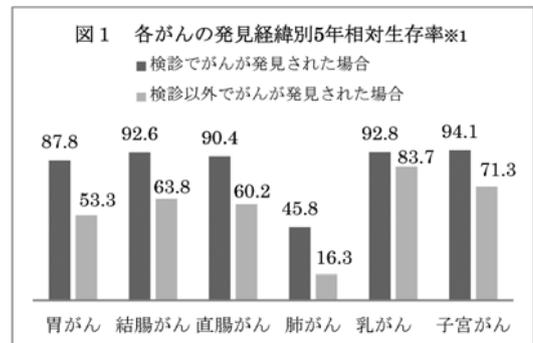
総合健診のお知らせ

- 市街地区 7月17日～19日
1月30日～31日
- 天売地区 6月24日
- 焼尻地区 6月23日
 - ・胃がん検診 1,500円
 - ・肺がん検診 500円
 - ・大腸がん検診1,000円

を発見するには、自覚症状がなくても定期的ながん検診を受けることが大切なのです。今年度の日程は次のとおりです。ぜひ、この機会にがん検診を受けましょう。

ステージ※2	I期	II期	III期	IV期
全がん生存率	91.7	81.0	50.1	19.2

表2 全がんの臨床病期別5年相対生存率 ※1 (がん統計 '13より)



(がん統計 '05より)

※1「5年相対生存率」 あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらいの割合かを表す。
 ※2「ステージ」 病期とよばれるもので、がんの進行度を分類するもの。数字が大きいほど進行したがんを表す。

各がん検診の方法

<胃がん検診> 胃部エックス線検査	胃を膨らませる発泡剤を飲んだ後にバリウムを飲み、様々な角度から胃の内部をX線で撮影します。胃内の凸凹などの変化がわかるので、胃がんだけではなく、潰瘍やポリプなども発見できます。
<肺がん検診> 胸部エックス線検査	全体をX線で撮影します。肺の末梢部(肺野部)にできるがんの発見に適しています。
かくたん 喀痰検査 (喫煙者のみ)	痰を採取し、そこに混入するがん細胞の有無を調べます。気管に近く、肺の入り口(肺門部)にできるがんの発見に適しています。
<大腸がん検診> 便潜血検査	便の表面をまんべんなくこすり、容器に入れて提出するだけです。大腸内の出血の有無を調べる検査で、大腸がんやポリプなどがあると、便中に血液が混じることがあります。